

地域福祉を知る

取材：総務課情報グループ 亀井 紳之介

「地域福祉」という言葉をご存じでしょうか。

全国的に少子高齢化の加速、家族形態の変化など社会の変化がどんどん進んでいく中、みんなが地域で安心して暮らしていくためには「地域福祉」が重要だと言われています。その理解はあまり進んでいないのが現状です。今回は皆さんも将来関わるかもしれない「地域福祉」についてお伝えします。

地域福祉って？

「地域福祉」とは社会福祉法で「地域における社会福祉」と定められています。

具体的には、高齢、しょうがい、その他さまざまな事情から福祉サービスが必要となっても、これまで作りあげてきた家族、友人等との関係を保ち、社会や経済、文化などあらゆる分野の活動に参加できることで、誰もが自分らしく、誇りをもって、まちなの一員として自立した生活が送れるような地域社会をつくっていくことです。

安平町でも、地域福祉活動を盛り上げようと活動している方々がいます。

今回は、町内で地域福祉活動に取り組んでいるNPO法人3団体（自然体験農園とあさ村、生活支援の会ねこのて、コミュニティシンクタンクいんくるらぼ）の代表にその活動や地域福祉への夢などのお話を伺いました。

これを機に、皆さんも地域福祉について少しでも考えてみていただければ幸いです。



自然体験農園
とあさ村
村長 青木 明子さん

とあさ村、みんなの家を立ち上げたきっかけ

しょうがいのある息子が取町の養護学校卒業後の居場所として地元で働けないかなという思いでとあさ村を立ち上げました。その後、北海道胆振東部地震で被災したことを機に地域とつながる場所、安心できる居場所づくりが必要だと感じたことや、農作業をやっているので悪天候の日や冬期間に活動場所がないと考え、拠点が欲しいと思ったのがみんなの家設立のきっかけです。

しょうがいのある家族がいる方は、何かあったときの心配をする方が多く、不安解消のための意見交換が地域の方とできるので、みんなの家ができて良かったと思います。しょうがいのある方の特性、関わりに慣れてもらえたら、

いざというときに助けていただけずし、本人たちも知っている顔の方だと安心ができます。

防災ワークショップ

みんなの家は、災害時にしょうがいのある方の避難を想定した場所です。地域の方と繋がるのが大事だと思っているため、防災について一緒に学ぶ目的で毎年1回開催しています。今年は専門家による防災講話やワークショップを行いました。以前は、備蓄品の展示、段ボールベッドの組み立て体験もしました。受講してから、防災に対する取り組みとして、発電機の使い方習得、ラジオや寝袋の備蓄もしており、いざというときは安心して宿泊できる体制を整えています。



防災ワークショップの様子
(とあさ村提供)

活動で苦勞している人、困っていること

地域の方とのコミュニケーションの取り方を模索しています。しょうがいのある方と出会う機会が、地域の方にとってメリットがあった方がよいので、感じてもらえるための事業を展開していかなくてはなりません。しょうがいのある方が災害時に助けてほしい、できることはしたいという思いですが、地域の方々へのメリットが必要で、イベントをしていくなから、地域の方たちがみんなの家をうまく活用できるように紹介していく機会を考えていきたいと思えます。

とあさ村の夢

まちづくりの一部分でも良いので地域の方々と一緒に担っていきたいです。将来振り返ったときに、とあさ村が「福祉のまちづくりの小さな1ピースでも関わっていたね」と周りの人たちが思っていただければ嬉しいです。

とあさ村連絡先

☎080-55586-1133